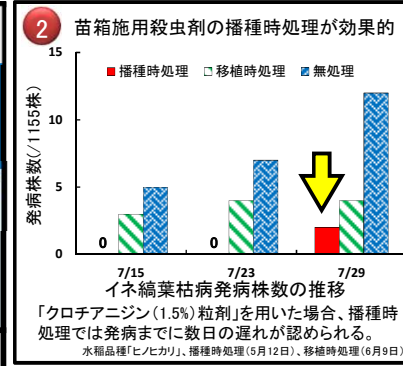
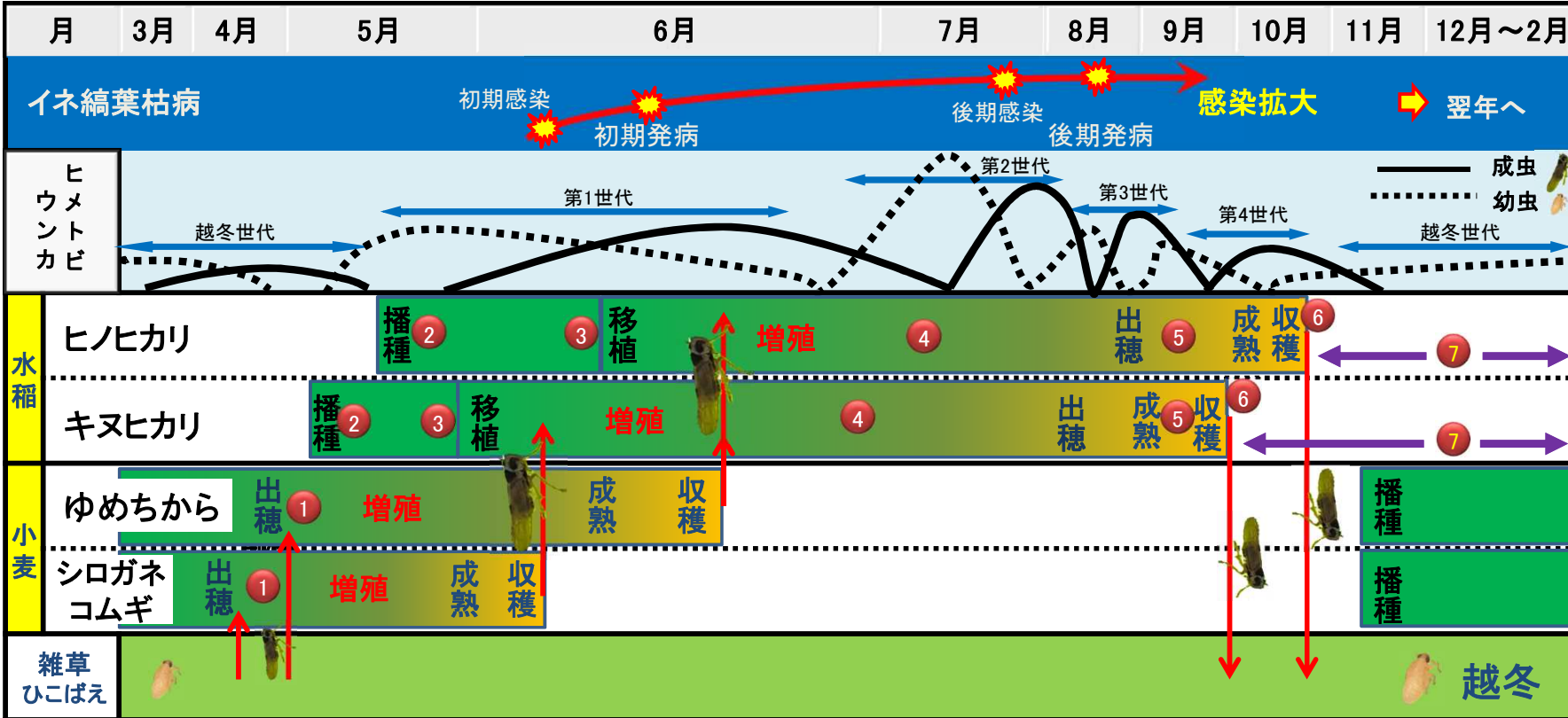


# 水稻、小麦二毛作地域における縞葉枯病防除マニュアル

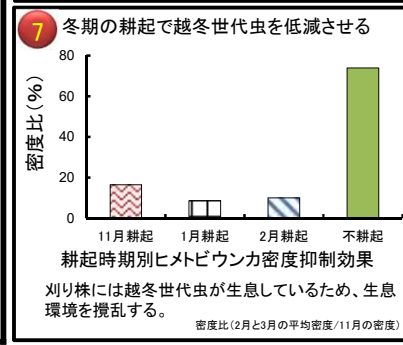
## ヒメトビウンカ(イネ縞葉枯ウイルス媒介虫)防除暦

無理せず、できる事をできる時にやりましょう。



### 防除の要点

- 1 雑草(ひこばえ)の発生を減らす。雑草などで越冬したヒメトビウンカが羽化後、小麦畑へ飛来する。
- 2 小麦の赤かび病防除と同時に薬剤を散布。
- 3 小麥は越冬後のヒメトビウンカの増殖場所として最適。小麥で増殖したヒメトビウンカが容易に水稲へ移動できる環境は作らない。
- 4 ヒメトビウンカ多発生時は本田防除の準備。発病株が多数確認される場合は後期感染を予防。本田防除を実施。発病株は株ごと抜き取る。
- 5 保毒虫率検定を実施(※)。7%以上は冬季の防除を確実にを行う。翌年の感染拡大に備える。
- 6 収穫前に畦畔除草を実施。収穫後の畦畔での産卵場所を除去する。幼虫の発生・生息場所を除去する。刈り株を裁断。ストローチップパーやフレールモアで早めに耕起する。ひこばえで感染の有無を確認。感染株が数か所認められたら早めに耕起する。
- 7 冬期耕起や畦畔除草を実施。越冬中のヒメトビウンカ幼虫を低減。ひこばえ感染株。葉色が黄化し、巻いて垂れ下がる。穂の出すくみが起こる。



## イネ縞葉枯病防除の考え方

※ 病害虫防除所では、9月頃に県下13地点の保毒虫率を発表しています。(Version 1.03\_19NOV)

イネ縞葉枯病は虫媒伝染病、ヒメトビウンカがイネ縞葉枯ウイルスを媒介することによって感染が広がる。  
イネ縞葉枯病感受性品種を栽培する地域においては、ヒメトビウンカの防除が最も効果的。  
経卵伝染する虫媒伝染病のため、一度多発生した地域では短期間での終息は望めない。長期間継続した対策が必要となる。